

最近の初診患者の動向調査
 ——初診から3年間の動向——
 ○毛利 元治
 もうり小児歯科（福岡市）

【はじめに】

演者の医院は小児歯科専門として32年が経過したが、小児う蝕の減少や、周辺歯科医院の増加など医院環境は大きく変化した。そのため、最近の初診患者の動向を分析して、今後の診療に反映したいと思う。

【調査対象と結果】

平成20年から23年の4年間に来院した初診患者509名のうち、6才以下369名を初診から3年間に渡って調査した。

- 1) 全初診患者のうち6才以下が76%を占め、そのうち1才が22%と最大だった。
- 2) 主訴は、検診43%とフッ素塗布39%が多く、虫歯17%、歯ならび12%、歯みがき12%、外傷7%、歯ぐきの異常5%、歯の痛み5%、歯の交換3%、食べ方2%、歯の色2%の順だった。
- 3) 年令別では、検診が全年令で40%を超えた。フッ素塗布は3才まで40%以上だが4才から20%台に低下した。虫歯は3才から30%台に急増した。
- 4) 一人平均df歯数は2才まで0本台だが、3才3.3、6才4.5と急増した。df者率も2才までは16%以下で、3才から55%を超えた。
- 5) 初診時の予定処置を完了した子は80%で、処置を残して中断は20%だった。また、高い年令ほど中断が多かった。
- 6) 初回の定診登録児は64%で、36%は登録に達しなかった。登録率はう蝕無し群68%、有り群57%と差が出た。
- 7) 初回の定診受診児は50%、未受診だが後日来院17%、来院が途絶えた33%だった。う蝕無し群の受診率は56%で有り群40%と差があった。

【考察】

初診患者の定診受診率は50%で、以前より低下している。現在の社会事情に合わせて、受診率を上げる工夫が必要と感じた。

JSPP東日本大震災被災支援事業「小児歯科医がはこぶ『子どもたちのこころを贈って還す』運動」活動報告第Ⅱ報

○久芳陽一、加藤真由美、濱野良彦、荻田修二、丸山進一郎

全国小児歯科開業医会（JSPP）

【緒言】

全国小児歯科開業医会（以下、JSPPという）は平成23年3月11日に起こった東日本大震災の被災支援事業として、全会員に義援金を募り、その資金を基に「小児歯科医がはこぶ『子どもたちのこころを贈って還す』運動を行っている。

【報告】

被災3年目、この運動の3巡目として宮城県石巻市、岩手県宮古市田老、福島県いわき市を訪問し、保育園、幼稚園、児童館などに、歯ブラシ、スケッチブック、クレヨン、折り紙などを人数分の支援物資としてお渡し、加えて、JSPP会員診療所に来院する子どもたちが描いた「励ましの絵」を譲渡してきた。その後訪問した園から楽しい絵が届いた。合わせて731枚の絵を被災支援事業の一環として、第3版の画集を発刊したので、その活動報告を第Ⅱ報として報告する。

【結語】

今回は被災地の保育所、幼稚園などの担当者に子どもたちの現状や健康度、地域社会の復興状況などの聞き取り調査も行ったので、合わせて報告する。この事業は一応終了となるが、一日も早い被災地の復興と子どもたちの健康と幸せを願う次第である。